

# 丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

丹波布のこれからを共に考える

## 西尾真澄さん vol.33

経歴：札幌市出身。看護師として勤務した後、大学で文化財などについて学ぶ。自然と関わりの深い丹波布に出会い、丹波市に移住。任期：平成29年9月～



こんにちは。地域おこし協力隊として、平成29年9月から丹波布に関わっている西尾真澄です。現在は主に、①丹波布を生かした地域づくりと、②丹波布技術保存会の組織の強化に取り組んでいます。

①丹波布を生かした地域づくりでは、和棉の栽培や糸紡ぎの技術などを通して、改めて丹波布の価値を実感しています。日本で、今なお糸紡ぎの技術が残る織物は、もう多くはありません。現在は、自分の畑で和棉を育て、歴史調査を行い、地元企業と丹波布を使った子ども用のイスを作成したりして、丹波布の未来を模索しています。

着任から丸2年が経過し、地域の皆さんと過ごしながら、協力隊員として育ててもらっ

ています。多様な可能性を持つ丹波布をどう生かすか。文化財？産業？観光？私は文化財的な価値の土台の上に、緩やかな発展ができればと考えています。

②丹波布技術保存会の組織の強化では、組織の課題整理などを具体的に話し合えるよう、理事会

で提案しました。時には激論も交わしながら、丹波布のこれからの真摯に向き合う皆さんと、共に進んで参ります。



棉畑で農作業する西尾隊員

### 市長コラム 丹波語り

#### 民主主義とは？



最近、市議会での議論を通じて「民主主義とは何か？」を私なりに考えることがありました。市政においては「どういう政治を行うべきかを市民自身が決める」という考え方と思っています。

つまり「主権在民」。全ての権力が市民にあることを前提として、その上で、政治を行う者例えば市長が市民の権利や自由を侵害しないように歯止めがされている仕組み、とも言えます。市長が力を行使しようとするときに、多くの手続きを経なければならぬということも民主主義の表れです。

いくら市長が「これは市民の為に、後世のために必要な施策だ」と言っても、市議会の委員会で審議し、最後に「本会議」で否決されれば予算は成立しません。この手続きは「間違いを

チェックする」「絶対君主制を排除する」という観点から絶対に必要不可欠なものと思っています。

一方で、延々と議論をするのではなく「決める」ために導入されているのが「多数決の原理」。ここでも「少数意見は無視される」という問題点があります。そのため、本会議で賛否を問う前に議員がお互いの意見を表明し合い、そのうえで改めて投票する「委員会」という手順も設けられています。

今回「柏原支所ホテル化」について、何度も委員会で議論され、本会議でも採決前の討論を行い、一連の流れに沿って慎重な吟味がなされました。その結果として市議会の意見が真つ二つに割れました。本件はそれぞれ微妙な問題であったということかと思っています。



市議会 本会議場

丹波市長 谷口進一